



もみじだい

学校教育目標 「夢をもち 地域と共に生きる生徒の育成」

第51回 卒業証書授与式「式辞」より

札幌市立もみじ台中学校を卒業する百一名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、この佳き日に、御来賓の皆様をはじめ卒業生保護者の皆様のご臨席を賜り、第51回卒業証書授与式を挙行できますことが、なによりも大きな喜びです。皆様には心より感謝申し上げます。

—中略—

私にとって、皆さんと共に過ごした三年間は、忘れられない時間でした。入学当初のあどけない笑顔、そしてその後も素直さを失わずに、精一杯努力する姿を応援しながら、実は私の方が、皆さんから多くの元気をもらい、笑顔になりました。そして、最上級生として迎えた今年度は、皆さんが「もみじ台中学校を動かす原動力」となりました。

振り返ってみると、先生方に頼ることなく、自分たちでつくり上げた修学旅行は、皆さんが日々積み重ねてきた経験が、見事に花開いた瞬間だったと感じています。それからは、皆さんの力が全校を一つにする『大きなエネルギー』となって、満ち溢れていく様子を、私は誇らしい気持ちで見守っていました。

中体連で見せた、結果がどうあれ最後まであきらめずにやり切る強さ。学校祭で見せた、お互いを信じることで得られる一体感と躍動感。合唱フェスティバルでの凜とした歌声や立ち姿。挙げればきりがありませんが、そのすべてに共通しているのは、自分たちで考えて主体的に行動する、自立した頼もしい姿でした。

しかし、そこに行き着くまでの道のりは、決して平坦ではなかったはずです。真剣に向き合えばこそ、お互いの思いがすれ違ったり、自分を見失いそうになったりしたこともあったでしょう。ですが、それらを乗り越えてきたからこそ、今の皆さんの姿があります。では、なぜそれができたのでしょうか？ 皆さんには二つのステキな魅力があるからです。それは、「言葉を大切にする力」そして、「相手の思いを受け止める力」です。

本当に大切なことは、何気ない日常の中に溢れています。小さな気づきを大切にしながら、言葉を交わし、思いを受け止め合った経験は、何ものにも代えがたい財産です。共に歩んだ仲間、皆さんを支えてくれた保護者の皆様、そして先生方。そうした周囲の存在に感謝できている自分がいれば、それが「成長の証」です。そんな皆さんの背中を見て、在校生は多くのことを学んできました。もみじ台中学校の伝統は、皆さんから在校生へと、しっかりと受け継がれています。そんな皆さんに、心からの感謝を込めて。本当に、ありがとう。

—中略—

最後に卒業生の皆さんへ。私がかくじけそうになった時に元気をもらっているとおきの言葉を贈ります。東区にあるモエレ沼公園を設計した、世界的な彫刻家イサム・ノグチは、彼の作品を鑑賞した人から、こんな質問をされたそうです。「この部分は、もっと形を整えた方が、完璧になりませんか？」その時、彼は笑いながらこう答えたそうです。「そこは、あえてそのままにしているのです。完璧じゃないことが大事なんです。ボクは、不完全なことの方が、面白いって思うんだよね」

完璧な人間はいません。だから時には失敗もします。しかし、そんな経験さえも「宝物」に変えることができるから、人は成長することができます。学び続けるということは、きっとそういうことです。

大切なのは、失敗しないことでも、迷わないことでも、負けないことでもなくて、前を向こうとすること。皆さんが夢をもって、しなやかに人生を切り拓いていくことを願い、式辞といたします。

令和八年三月十三日 札幌市立もみじ台中学校長 木原 英俊



第51回 卒業証書授与式



送辞

在校生代表 2年1組 ○○ ○○

真新しい制服、小学校とは違う校舎、名前もわからない仲間とともに中学校生活が始まった3年前。皆さんが耐え抜いた不安や試練、そしてたくさんの出会いや素晴らしい経験は、言葉には表せられないほど、思い出のあふれる充実した日々になったのではないのでしょうか。

そんな3年間で今終わろうとしています。緊張や不安、期待や憧れからスタートした中学校生活も皆さんにとってかけがえのないものになったことと思います。皆さんと関わることでできた2年間という時間は、私にとってあっという間に過ぎ去っていったように感じました。改めて振り返ると先輩方の凛々しく、輝かしく、頼もしい姿が鮮明に浮かび上がります。

陸上競技大会では、絶対に負けないという強い意志で目の前のことに全力を注ぐ姿がとても印象的でした。

先輩方にとって最後の年となる今年度はどの行事にも全力を尽くし、3年生としての本気を見せてくれました。

学校祭のステージ発表ではクラスが一つとなり、工夫を凝らした素晴らしい発表をしていて、思わず見入ってしまうほどのクオリティの高さでした。

合唱フェスティバルでは、この学校の伝統を私達に見せつけてくれました。他の学年よりも早い段階から放課後に音楽室で練習に励んでいました。我々後輩も3年生の合唱練習に同行し、練習内容、合唱に対する姿勢、場の空気などを肌で感じました。そして迎えた合唱フェスティバルでは体育館全体に美しいハーモニーが響き渡り、先輩方の合唱に釘付けになり、心がふるえました。

部活動では、困った時、思い詰めてしまったときに、親身に相談に乗ってくださったり、部活内の雰囲気を明るく、楽しくしてくださったりしました。普段の日常だけでなく、部活動でもメリハリをつける先輩方の後ろ姿を見て今日、ここまで進んできました。

生徒会活動では、先輩方は忙しい中でも会話をしながら、いつも笑顔で明るく、楽しい雰囲気を作ってくれました。そのおかげで、慌ただしい中でも役員としての活動を楽しむことができました。

明るい先輩方の声掛けがあったから、今こうして役員活動を楽しむ事ができています。先輩方と活動したこの時間は懐かしく、何事にも代えがたい思い出です。

たくさんの思い出をくれた先輩方は何事にも全力で、その背中から、学校生活を楽しむコツを教わっていたように感じます。私は、普段の学校生活、部活動、学校行事、生徒会活動、委員会、局会活動、すべてを楽しむべきだと思っています。楽しくない活動に自分から取り組む人は多くないはずで、先輩方が明るく楽しく活動していたから、この学校は自主的な活動が活発に行われているのだと思います。面白そうなもの、楽しそうなものには自然と人が集まるものです。そんな環境の基礎となっていたのが先輩方だったのではないのでしょうか？

たくさんの楽しい思い出をくださった 大切な先輩方ともいよいよお別れの時となりました。みなさんが卒業し、静まった廊下を見ると、とても寂しい気持ちでいっぱいです。私達も先輩方との思い出を糧にしていろいろなことを頑張っていきます。

卒業生の皆様、これまでたくさんのことを教えてくださり、本当にありがとうございました。先輩方は私達在校生の尊敬する先輩です。来年度以降、私達にできる後輩に、尊敬される先輩となれるようみなさんを追いかけていきます。

答辞

卒業生代表 3年1組 ○○ ○○

3年前、私達は背負った鞆に初々しさを詰め込んで、もみじ台中学校の門をくぐりました。小学校とは違う生活、新しい友達や先生、より専門的になる勉強。中学校生活への期待が高まったことを今でも覚えています。

2年生に進級した私達には、初めて後輩ができました。「先輩!」と呼ばれ、少し大人に近づいたような気がしました。

私達の自慢の後輩には、たくさんの良いところがあります。

1年生の皆さんは、積極性があり、生徒会活動や学校行事などに真剣に取り組む姿を見せてくれました。初めてのことだらけの中、皆さんのように積極的に動ける人は、とてもかっこいいです。

2年生の皆さんは、行動力があります。自分の夢や目標をしっかり持ち、それに向かって努力する姿を見せてくれました。周りを巻き込み、仲間と共に成長するところが、素敵です。

そんな皆さんなら、良いところをどんどん伸ばし、もみじ台中学校を更に発展させてくれると思います。これからできる後輩たちにもかっこいい姿を見せてあげてください。

私達3年生は、素敵な後輩をはじめ、本当にたくさんの方々に支えられ、助けられ、今この卒業式を迎えることができています。

私達の学校生活を支えてくださった教職員の方々、家族のみんな、3年間ありがとうございました。どんなときでも私達に愛をもって接して下さったからこそ、義務教育を楽しく終えることができました。今まで過ごしてきた日々、学校生活を通して学んだこと、皆さんから頂いた愛情は、絶対に忘れません。

そして、何より同じ時を過ごした3年生のみなさんには、言葉では言い尽くせない思いがあります。

地図を片手に見知らぬ町を歩いた修学旅行も、学級が一丸となって臨んだ陸上競技大会も、学級の個性が爆発した学校祭も、みんなと一緒にだったから、充実感とともに幸せな気持ちを味わうことができました。

何気ない毎日にも笑顔が溢れ、自然とお互いを気遣う思いやりがありました。明るく優しい友と過ごしたこの3年間、その一つ一つがかけがえのない思い出です。

その中でも、心に残っているのは、やはり合唱フェスティバルです。この学年で取り組める最後の行事ということもあり、正式に練習が始まる1ヶ月前から音楽室に集まって練習しました。リズムが合わなかったり、ハーモニーのバランスが取れなかったり、最初は苦労しました。それでも、周りを信じ、パートリーダーを中心に練習を重ね、自分たちの力で、自分たちらしい合唱を作り上げました。最後の体育館練習では、一緒に練習してきた日々が終わってしまう寂しさで泣いてしまう人もいました。しかし、それは本気で取り組んだという証です。卒業式の最後に歌う「正解」は、泣いてうまく歌えないかもしれません。でもそれでもいいです。楽しんで、笑顔で歌いましょう。

別れの時が近づいてきました。私はみなさんとの別れが、本当に名残惜しいです。まだ一緒にいたい、また笑い合いたい。そんなことを思っています。しかし、残念なことに時を止めることはできません。

私達は明日から、自分だけの正解を探す旅に出ます。これまでの人生の中で学んだこと、人との関わりの中で得たことを頼りに、勇気をもって歩き始めます。歩いていく道はそれぞれですが、また会えたときに、みんなが自分なりの正解を見つけ、それぞれの場所で輝いていることを楽しみにしています。

3年生のみなさん、自分だけの正解を探す準備はできていますか。それでは、「よーい はじめ」

